



営農タイムリー！



2022年2月28日発行

ハクサイダニに注意 !!

2月下旬、桂川河川敷の圃場でハクサイダニを確認しましたので、防除方法等を紹介します。

◇ ハクサイダニ

(1) 形態

雌成虫は体長0.7mm、胴体部は黒色、暗赤色の4対の脚をもつ。胴体部背面後方に肛門があり、水滴状の排泄物をつけていることが多い。行動はきわめてすばやく、わずかな震動でも葉陰や株元に隠れる。

卵は橙赤色、楕円形で植物体上や土壌などいたるところに産み付けられる。産卵は1粒ずつ行われるが、葉脈沿いや狭い場所が好まれる。



成虫



卵

(2) 生態

低温期に活動する。越冬した休眠卵は10月～11月頃にふ化し、幼虫、第1～第3若虫を経て11月～12月に成虫となる。年間1～2世代を経過し、成虫は12月と3月に発生が多い。本種は単為生殖を行い、雄成虫は現在のところ確認されていない。成虫は5月上旬頃まで活動し、休眠卵で越冬する。

(3) 寄主植物

ハクサイ、カブ、キャベツ、ダイコン、ブロッコリー、レタス、シュンギク、ミズナ、ニンジン、ハウレンソウ、ネギのほか、イチゴ、ムギにも寄生する。

(4) 被害

昼間は葉陰や地表面に生息し、夕方や曇りの日に葉上に移動して加害する。被害葉は灰色から銀白色になり、のちに枯死する。

幼植物の芯葉が加害されると、株が萎縮し、株絶えとなることがある。結球する野菜では結球内部にも侵入して加害する。

ダイコンやホウレンソウでは芯葉付近に加害が多く、芯葉は萎凋して伸長しない。



ホウレンソウ被害葉 (表)



(裏)

(5) 防除

多発した場合は葉や株ごと取り去り処分する。収穫残渣や雑草に残された卵が次の発生源となるので、発生圃場では雑草や残渣除去を徹底する。また毎年発生の見られる圃場では、太陽熱消毒などで越夏する休眠卵の防除を行う。

ハクサイダニ登録薬剤							2022.2月
成分系	RACコード	薬剤名	作物名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	成分別総使用回数
系、ピレスロイド系、ピレトリン	I:3A	アディオン乳剤	こまつな	2000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
			しゅんぎく	4000倍	収穫21日前まで	2回以内	2回以内
			ほうれんそう	3000倍	収穫14日前まで		
スピノシン系	I:5	ディアナSC	なばな類	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
ピロール系、ジニトロフェノール系、スルフラミド	I:13	コテツフロアブル	こまつな	2000倍	収穫3日前まで	1回	1回
その他	-	サンクリスタル乳剤	しゅんぎく	300倍	収穫前日まで	-	-

※ 登録薬剤が少ないので、薬剤防除の際は、本店営農経済部へご相談下さい。